

ビル・ゲイツ氏 「感染症対策」を語る!!

令和4年6月27日付の朝日新聞・朝刊に、世界のビル・ゲイツ氏の「**感染症対策**」に関するインタビューが掲載されましたので、ご紹介します。

感染症 再来年防止へ新組織を 運営費年10億ドル 日米に期待

米マイクロソフト創業者で、社会貢献活動家のビル・ゲイツ氏（66）が6月中旬、オンラインで朝日新聞社の単独インタビューに応じた。

感染症の予防や治療薬の開発に多額の資金を投じてきたゲイツ氏は、「**貧しい国における感染症の抑制により、富裕な国も恩恵を受けられると強調**」。

パンデミック再来を防ぐため、主要7カ国主要会議（G7サミット）議長国に期待すると語った。

ゲイツ氏は「**今回のようなグローバルなパンデミックが20年以内に再来するリスクはおよそ50%**」と予測、「**感染症は世界のどこで起きようが、早期に封じ込める必要がある**」と、再来防止に各国が協力して取り組む必要性を訴えた。

世界保健機関（WHO）は「十分な資金が与えられていない」と指摘し、封じ込めの機能を抜本的に強化する「**G E R M（グローバル・エピデミック対応・動員）**」の創設を提案した。

G E R Mは、専門家3千人を各国に配置し、新たな感染症の発生を速やかに覚知し、政府と連携して検査や診断、データの分析を行う。

運営費は年10億ドル（1350億円）と試算し、米国や日本など先進国の拠出を期待とした。

「今回のコロナ禍による損失は14兆ドル（1890兆円）に上る。これを回避できるなら高くない」と利点を強調した。

ビル・ゲイツ氏、「感染症対策」語る

ビル・ゲイツが予言していたパンデミック 「再び来る」への戦略は
マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏（66）がいま、一番力を入れているのが感染症対策だ。昨年離婚した元妻と創設した『ビル&メリンダ・ゲイツ財団』を拠点に、20年以上にわたり莫大（ばくだい）な私財を投資してきた。

7年前にパンデミックの発生を「予言」していたゲイツ氏は、こう話す。

「今後20年の間に、50%の確率で再びパンデミックが来るリスクがある」

——なぜ2015年に「感染症による世界危機」を予測できたのですか。

「我々の財団は貧しい国の感染症対策に力を入れており、過去100年のあらゆるアウトブレイク（感染爆発）について研究しました。そして、人々が頻繁に移動するようになったとで、呼吸器系のウイルス感染症が瞬く間に広がることに気づきました。」

「専門家を集め、次の晩で見創を阻止する者は何かを尋ねると、『基本的に何もなし』が答えでした。この100年間の間、我々は単にラッキーなだけで、いずれ運はつきると。そこで講演を無料配信するTEDトークス出演などを通じて、準備の必要性を訴えました。動画は4千万回以上再生されましたが、95%は今回のパンデミックが起きた後の視聴でした。」

——今回のコロナ禍は、来るべくして来た、と。

「死者数は2千万人近くに上るという試算もありますが、犠牲者の多くが高齢者でした。感染症は主に途上国の問題とされてきましたが、今回は高齢化が進む先進国に大打撃を与えたという点が特徴だと思います。もっと早く準備を進めていれば、こんなひどい目に合わずに済んだはずですが、**このまま何もしなければ、パンデミックが再来するリスクは、20年以内におよそ50%に上ると思っています。**」

——再来を防ぐにはどうすればよいでしょうか。

「パンデミックを火事に例えると、どの国でも起こる可能性があります。ただ初期消火活動をしないと、全世界をのみ込む可能性があります。中国やアフリカで発生した新たな病気だからといって静観するのではなく、アウトブレイクの段階で鎮火すべきです。」

――具体的には？

「我々の社会には消防署があり、いつ起きるかわからない火災に備えて隊員たちが訓練を積んでいます。G E R M（グローバル・エpidemick対応・動員）という新組織は、世界規模の消防隊のようなものです。」

「年間10億ドルより少し多い程度の費用がかかりますが、これで新型コロナにより世界が被る14兆ドルの経済損失を妨げるなら、多額ではありません。」

――現実的な話なのでしょうか。

「今回のG7サミット議長国のドイツには、この件について考えてくれている人がいます。日本も、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の設立に大きな役割を果たすなど、これまでもグローバルヘルス分野の主要なプレーヤーでした。来年のG7が日本で開かれるのは幸運ことだと思っています。」

2022年6月28日

福岡ワンヘルス協議会・事務局